

## 6月に向けて

代表取締役 三田雅憲

暑さが本格的になり、工場で仕事をする上で少し大変になってまいります、水分補給をしっかりと行い、体調に気を付けながら頑張ってください。

又6月にはずっと延期しておりました新入社員歓迎会が、大阪と千葉で開催されます。2020年度に入社された大阪本社3名と千葉白井工場の1名、そして2022年度入社された大阪本社1名と千葉白井工場1名の合計6名の社員諸君を会社として歓迎し、今後ぜひ当社の中核を担う人材になっていって頂きたいと考えております。

さて、今月は朝礼でも少しお話した江戸時代に瀕死の米沢藩を立て直した名藩主 上杉鷹山の先生として、又尾張藩の藩校「明倫堂」の学長として有名な細井平洲に関して皆さんと学びたいと思います。朝礼では生涯にわたって学び続けることの大切さ「学ぶことは闇の中を歩くうえでの行灯（ライト）のようなもの」で足元を照らし、（先の見えない）人生を進むうえでなくてはならないものであるし、又いくつになっても学ぶことをやめてはいけないんだという話を紹介しました。

ここでは2つほど細井平洲のことを紹介したいと思います。

### ①まず親が手本を見せよう

平洲は「子供というのは、いろいろと親の真似をします。それは、幼い時から親のしぐさや話を見たり、聞いたりしているからです。ですから、子供に善いことさせようとするならば、まず親が善いことをして見せるようにするのが当然です」と、親が手本になることの大切さを説いています。親を大人とか社会・先輩・上司と読み替えても同じではないでしょうか。また「人に善いことと悪いことを判断して見分けることを教えなくて、善いことをしなさい！悪いことをしてはいけない！と言っても、その判断ができるものではありません」と説いています。子供なら尚更です。このように子供の身の回りにあつては、親や大人（上司）の行いが大切であることを再確認しなければなりません。

又平洲は人にとって最も大切なことは「譲る」「相手を思いやる」ことであり、反対に「思い上がり」「相手のことを考えない自己中心の行い」が、最も人の道に外れたことだと説いています。思い上がるとは「自分ほど物知りな者はいない、などと誇り他人を見下す行い」であつて「人と人との交わりにあつてはこの思い上がりの気持ちを無くして譲り合う気持ちを持つてば、お互いの心が通じ合い物事もうまく運ぶ」と説いています。

そして、平洲はその信条として「実践」を最も大事にし、常々「学問と今日とは二途（にと）にならざるように（学ぶことと現実が別々にならないように）と説かれています。これは学び・考え・実行することが3つ揃って初めて学んだことになるということです。すなわち「学ぶという事は知識を得るためだけのものではなく、学んだことを実生活に生かして、より良くしていくことが目的なのです」と言っています。

これらの平洲の言葉は家庭にあつても職場にあつても共通する言葉であると私も感じております。

いづれも時間や根気のいることではありますが、これからご結婚やご家庭を持ったり、子供や部下を育成することもあると思います。2023年も当社への入社を考えて門をたたいてくれる学生さんがたくさんおられます。そのような人々が入社されても、本当に良かったと思える会社になっていくように、社員皆と共にこれからも学んでいきたいと思います。